



第31回定時株主総会

Sosei Group Corporation | 第31回定時株主総会

Agenda

1

開会宣言

2

議決権個数のご報告

3

監査委員会の監査報告

4

2020年12月期の連結業績・事業報告

5

連結計算書類の監査結果報告

6

決議事項

7

質疑応答

8

採決



1

開会宣言

Opening Declaration



2

議決権個数のご報告
Report on the number of
voting rights



3

監査委員会の監査報告

Audit Committee Audit Report



4

2020年12月期の事業報告
連結業績

FY2020 Consolidated Results
Business Report

2020年も事業進展は順調

2020年12月期(1月-12月)業績ハイライト

1

既存提携の進捗、新規提携の実施、共同投資により、売上収益は8,842百万円(83百万ドル)(前期は9,726百万円(89百万ドル))

2

提携の推進、戦略の実行、コスト管理に注力したことで、現金利益は2,904百万円(27百万ドル)(前期は2,846百万円(26百万ドル))

3

営業利益は928百万円(9百万ドル)(前期は384百万円(4百万ドル))となり、通期黒字化という目標を達成

4

積極的な戦略的成長プランを後押しするために、200百万ドル超の新規成長資金調達を実施。COVID-19流行下での日本のバイオ医薬品企業で最大規模の調達

5

現金および現金同等物は246億円増加し、現金および現金同等物の期末残高は400億円と安定した水準を維持

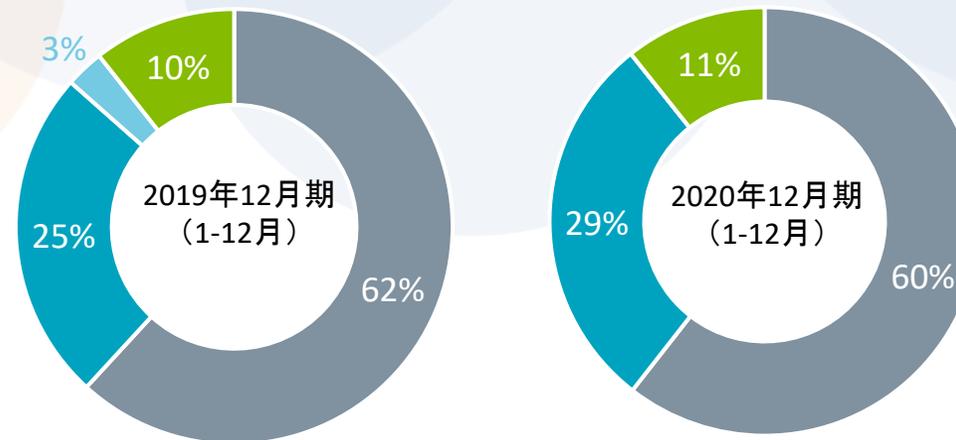
独自のバランスの取れたビジネスモデルにより持続的な財務状態を実現

注: 為替レート: 1ドル=106.77円(2020年度)、1ドル=109.03(2019年度)

創薬提携と共同投資に注力し、 バランスの取れた売上内訳を実現

	百万円		百万ドル	
	2019年12月期 (1-12月)	2020年12月期 (1-12月)	2019年12月期 (1-12月)	2020年12月期 (1-12月)
売上収益	9,726	8,842	89.2	82.8
売上原価に 係る現金支出	(807)	(607)	(7.4)	(5.7)
研究開発費に 係る現金支出	(3,937)	(3,411)	(36.1)	(31.9)
一般管理費に 係る現金支出	(2,164)	(1,995)	(19.8)	(18.7)
その他の現金収益	28	75	0.3	0.7
現金利益	2,846	2,904	26.1	27.2
非現金支出費用	(2,462)	(1,976)	(22.6)	(18.5)
営業利益	384	928	3.5	8.7
金融収益(費用)	331	1,050	3.0	9.8
持分法による 投資利益(損失)	(181)	(356)	(1.7)	(3.3)
税引前当期利益	534	1,622	4.9	15.2
当期利益	1,432	1,479	13.1	13.8

売上収益内訳



	2019年12月期(1-12月)		2020年12月期(1-12月)	
■ マイルストーン	6,013百万円	55.1百万ドル	5,353百万円	50.1百万ドル
■ ロイヤリティ	2,406百万円	22.1百万ドル	2,544百万円	23.8百万ドル
■ 医薬品販売	276百万円	2.5百万ドル	-	-
■ その他	1,031百万円	9.5百万ドル	945百万円	8.9百万ドル

新規プログラムの加速、大手企業との新規提携、 企業価値向上のため投資は小幅増加

業績見込み
(2021年12月期)

研究開発費に係る現金支出

4,000百万円～5,000百万円

- ✓ 選択的M₄ 作動薬プログラムへの投資拡大 – 大手企業との新規提携を確保するための大変重要な機会
- ✓ ファーストインクラスの医薬品となる可能性のある新規ターゲットの創薬とプログラム推進の加速

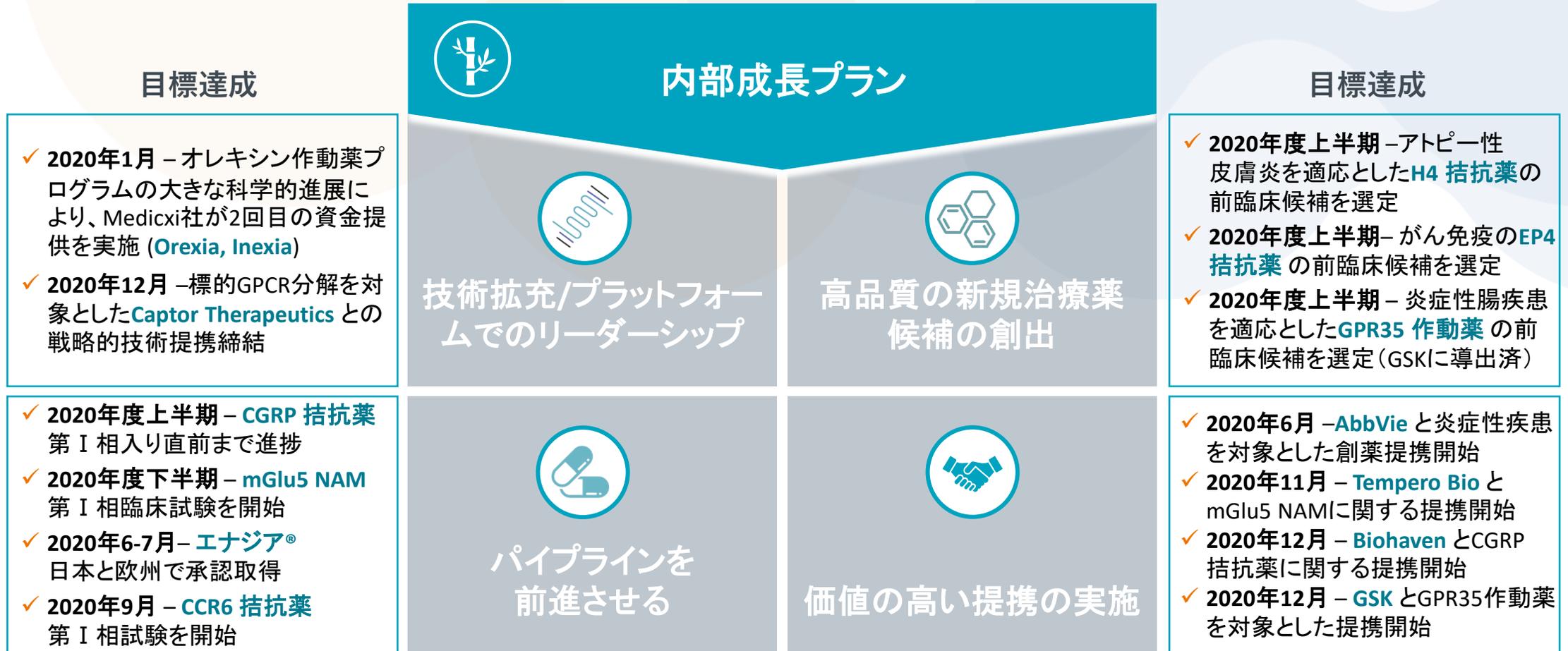
一般管理費に係る現金支出

1,800百万円～2,300百万円

- ✓ コンプライアンスおよびガバナンス体制の継続的構築
- ✓ オラクルNetSuite ERPシステムの導入

将来の成長加速を見据えて足元での投資を実施

世界をリードするGPCR創薬が牽引する当社の内部成長プラン



内部成長プランの目標をすべて達成

2020年にも価値の高い3つの新規提携を実現

提携先	プログラム	疾患領域	契約一時金 / 初期マイルストーン	潜在的取引総額 ¹
	2020年 GPR35作動薬を対象とした研究開発提携およびライセンス契約	消化器疾患、免疫疾患	44百万ドル	4.8億ドル超
	2020年 CGRP拮抗薬を対象とした研究開発提携およびライセンス契約	神経疾患	10百万ドル	3.8億ドル超
	2020年 ライセンスオプションを含む創薬提携 ²	炎症性疾患および自己免疫	32百万ドル	4億ドル超
	2019年 複数のターゲットを対象とした提携	複数 当面は消化器疾患に注力	26百万ドル	12億ドル超
	2019年 複数のターゲットを対象とした提携	複数	26百万ドル	10億ドル超
	2015年 複数のターゲットを対象とした提携	複数	--	18億ドル超
	2015年 A _{2a} 拮抗薬を対象とした研究開発提携およびライセンス契約	がん免疫	10百万ドル	5億ドル超
合計			148百万ドル	59億ドル超

¹ 将来受け取る権利を有するオプション行使料、開発/承認/商業化マイルストーンに加えグローバルなロイヤリティの総額

² アッヴィは最大3つのターゲットを追加的に選定できるオプションを有する

新たな提携・自社プログラムが加わり、 将来のさらなる提携と企業価値の向上を牽引



- 提携プログラム
- 自社開発プログラム
- ★ 最近返還されたプログラム



注：シーブリ®、ウルティプロ®およびエナジア®はノバルティス社の登録商標です。¹日本でのレビー小体型認知症を対象としたHTL0018318の第II相臨床試験は中止しました。当社グループは、医薬品医療機器総合機構(PMDA)へHTL0018318(あるいは別の新規M1作動薬候補)の新たな治験届を将来再提出する予定です。²GLP1拮抗薬のライセンスオプションは、2020年12月31日までに行使されなかったため、現在は自社開発プログラムです。

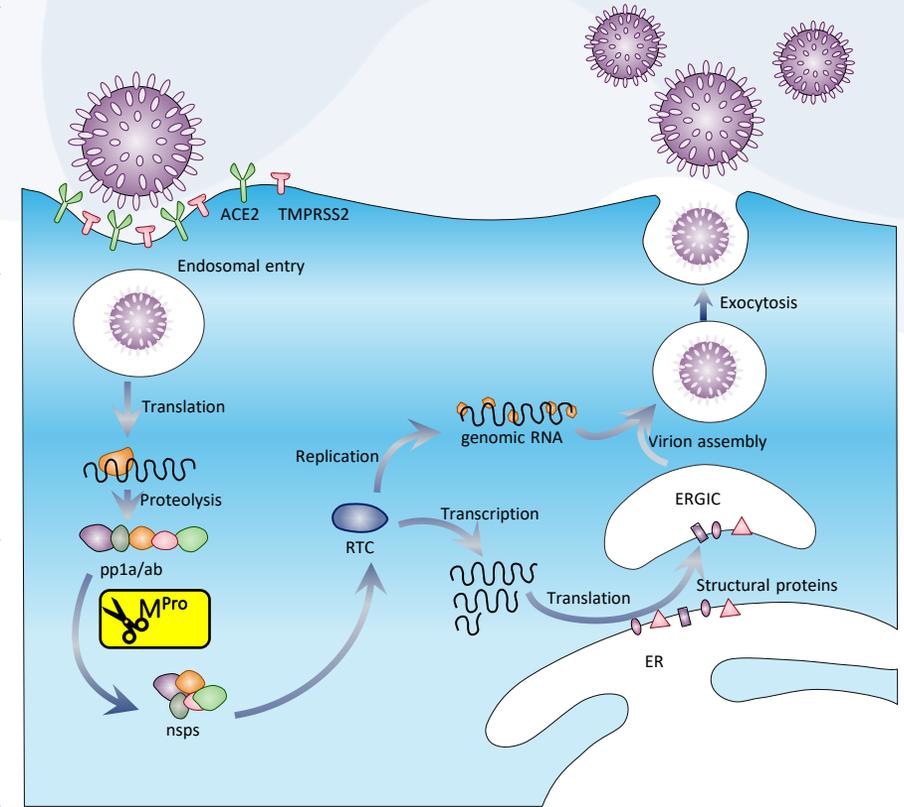
他のムスカリンプログラムへの投資を継続しつつ M4作動薬HTL16878への投資を強化

プログラム	化合物	ステージ	FY2021	FY2022	FY2021 予算配分*
M ₄ 作動薬	HTL16878	Ph 1	Ph2に向けての準備	Ph2 開始 Ph 2 臨床開発	50% 
M ₁ 作動薬	HTL18318	Ph 1	毒性調査 データ解析/ バックアップ化 合物との比較	優先的に開発する M ₁ 作動薬プログラムを 2021年末までに決定	25% 
	非開示 (M ₁ バックアップ)	前臨床候補選択	前臨床試験		
M ₁ / M ₄ デュアル作動薬	非開示	前臨床候補選択	前臨床試験		25% 
提携に向けた活動			可能性のある複数の提携 候補先と積極的に交渉	2021年中の 契約締結を目指す	-

注: ムスカリンプログラムの中でも代表的なものに絞って進捗予定を記載
*ムスカリンプログラム中での予算配分であり、研究開発費の全体の予算配分とは異なる

2020年には当社のSBDDプラットフォームをCOVID-19の研究開発に活用し、強力な抗ウイルス活性を持つ低分子を特定

- ✓ ウィルス複製に不可欠なタンパク質であるSARS-CoV-2 Mプロテアーゼに焦点を当てたプログラム
- ✓ 構造ベースのアプローチにより、SARS-CoV-2のみならず将来の変異コロナウイルスに対する経口治療候補化合物を特定
- ✓ 社会的責任への取り組みの一環として当社が主導する国際的な企業間の協力のもと急速に進展



SARS-COV-2のみならず将来の変異コロナウイルスと戦うために、現在、同定した分子の開発を加速できる抗ウイルス開発専門のパートナーを探しています

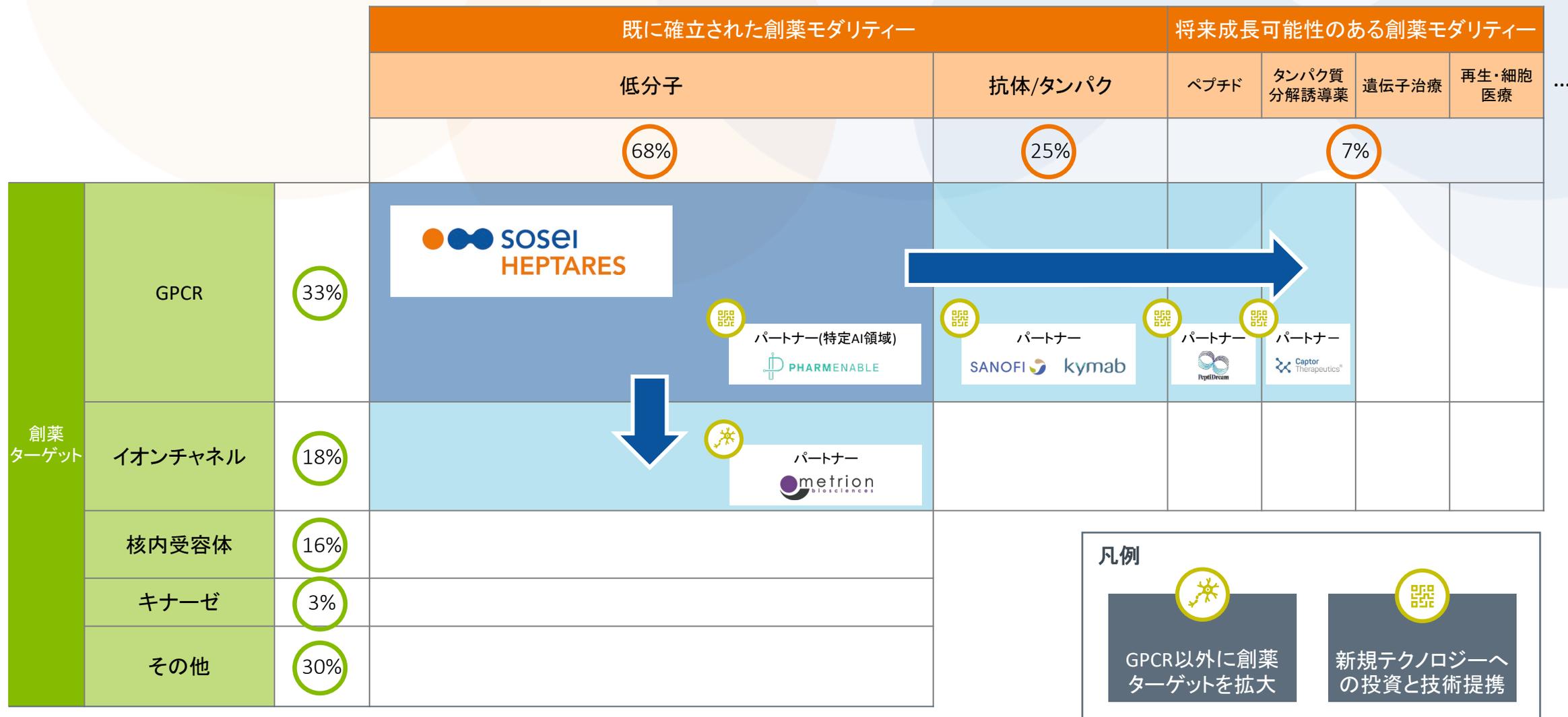
企業価値拡大を目指す戦略的成長プラン



将来の成長を見据えた新たな収益源・テクノロジーの獲得を目指す

- ✓ 2020度実施の提携
- ✓ 2021年度実施の提携(補足資料参照)

戦略的技術提携の拡大を通じ、創薬領域の最大50%をカバー



○ : 主なタンパク質ファミリーをターゲットとする、承認済み低分子薬が対象とするターゲットの割合 (Nature Reviews Drug Discovery volume 16, pages19–34(2017))

○ : 過去5年間(2015-2019)にFDAに承認された新薬のモダリティ別の割合

新規TIVフレームワーク – 中期的にファーストインクラスとなりうる創薬ターゲット探索への投資と協業・提携を目指す



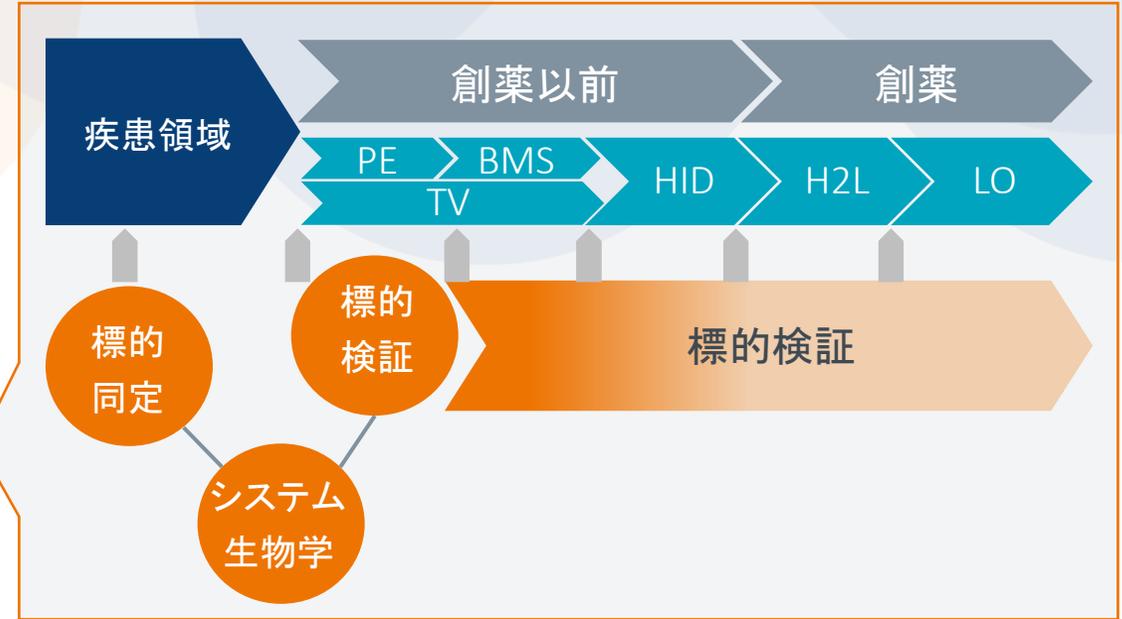
社内での疾患領域に対する取り組み

既存の提携の最大化

新規提携

- 当社グループの関心のある疾患領域(消化器/免疫/神経科学)での支援

来たるターゲットの波に投資する



mAbプラットフォームの構築

- プラットフォーム最大化のための提携先の特定

2021年以降、外部との技術上の協業・提携を積極的に拡大

注: PE=Protein Engineering (タンパク質工学); BMS=Biomolecular Structure(生体分子構造); TV=Target Validation(ターゲット検証); HID=ヒット化合物同定; H2L=Hit-to-Lead; LO=リード化合物同定

持続可能な未来の実現と株主価値の向上

1

持続可能な未来の実現

- 1990年の創業以来、「日本発の国際的なリーディングバイオ医薬品企業」をビジョンに掲げ事業を拡大してきた
- これらの企業ビジョンに基づく最先端の科学に立脚した医薬品の研究開発型企業として、世界中の人々の健康で豊かな暮らしを支える
- 広い意味では、全てのステークホルダー（患者さま、株主さま、お取引先、従業員、社会）に対する社会的責任を果たす

2

持続的成長を通じた株主価値の向上

- 2015年に国連で採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）の実現に向け、ESG（環境・社会・ガバナンス）を重視した企業の取り組みへの期待が高まっている
- 経済価値のみならず社会的価値を同時に向上させることで、当社グループの持続的成長を実現し、株主・投資家の皆さまの価値向上を目指す

当社グループの重要なESG課題



当社グループは現在の事業特性から9つのESG課題に注力(SDGs17項目中10項目を網羅)

出典：国際連合
LINK: <https://www.roseheptares.com/investors/sustainability.html>

ESGに関する当社グループの主な指標



環境

研究所での1人当たりCO2排出量

2020年	4.17トン
2019年	5.07トン

創薬産業の効率化

創薬数ランキング*

6個 54位/2,258社中

ライセンス金額ランキング**

1兆円+ 7位/ 世界中の全製薬企業中



社会

ダイバーシティ

女性管理職比率	26%
外国籍従業員比率	78%

科学コミュニティへの貢献

掲載論文数	200+
構造解析数	300+

SBDDをCOVID-19の
グローバルな研究開発に活用



ガバナンス

ガバナンス体制

取締役会の社外取締役比率

83%

(日本の全製薬企業中トップ)

取締役会の外国籍取締役比率

33%

*直近5年の新規臨床シーズの起源会社の分析。明日の新薬、当社開示資料より作成 **Evaluate Pharma
LINK: <https://www.oseiheptares.com/investors/sustainability.html>

ESGにおける3つの要諦

1

通り一遍の流れに乗るためではないし、そうあってはならない

2

本質は各人が本心から他人を慈しむ、利他の修行の深化

3

利潤の追求の正当化 (Max Weber) → 論語と算盤 (渋沢栄一)



Max Weber



渋沢栄一

2021年度の優先目標



ESGリーダーを目指す

- 全社で持続可能なESGの活動とポリシーを推進
- ヒトコロナウイルスの経口治療薬候補のさらなる開発のためのコロナウイルスプログラム推進および業界パートナーとのコラボレーションの確立



内部成長プランの推進

- テクノロジー / プラットフォームにおけるリーダーシップの拡大
- 高品質な新規医薬品候補の創出
- 創薬および開発パイプラインの充実
- 2~3つの新規提携または共同投資の実現



戦略的成長プランの実行

- 収益創出につながる企業買収を模索
- 新規テクノロジーへの投資と技術提携によりGPCR以外の新規ターゲットへ創薬の範囲を拡大
- 後期臨床開発段階のアセットを日本市場向けに導入



5

連結計算書類の監査結果報告
Report on Audit Results on the
Consolidated Financial Statement



6

決議事項

Matters to be Resolved

議案

取締役6名選任の件

田村 眞一	取締役会会長 代表執行役会長 兼社長CEO 指名委員長 報酬委員	再任	デビッド・ロブリン	社外取締役 指名委員 報酬委員	再任 社外 独立
遠山 友寛	社外取締役 監査委員長 報酬委員	再任 社外 独立	永井 智亮	社外取締役 監査委員	再任 社外 独立
加賀 邦明	社外取締役 指名委員 監査委員	再任 社外 独立	ロルフ・ソダストロム	社外取締役候補 監査委員候補 報酬委員候補	再任 社外 独立

注:現在の当社における地位および担当を記載



7

質疑応答
Q&A



8

採決
Vote